

令和元年 5 月 30 日

学園関係各位

学校法人 木村学園
理事長・学校長 木村 誠

平成 30 年度（2018 年度）
学校法人木村学園事業報告

「昨年度状況」

弊学園を取り巻く環境は、専門職大学が 2019 年度からスタートするなど、職業スキルに特化した教育の高度化や、産業界と連携した専門技術を備えた人材育成を求められておりました。

そのため、他校と比較して学生数が少なかった情報エンジニア科の学生数を増加させるため、電子+デザインを学べるようプロダクトデザインコースのリニューアルを行い、プロダクトデザイナーとして活躍されている方を講師として招き、実践的な専門の授業をして頂くなど教育改善に取り組むと同時に、情報設備の更新を進めてまいりました。

また、学生の就職先が希望した企業になることを目指し、担任制による細やかな学生対応を行い、全員希望就職を目標に今後も進めてまいります。

創立者の精神に基づいた「人」の教育は、プロとしての人格陶冶のため、まず良識ある一般社会人として遅刻欠席など基本的な生活習慣を身に着ける人格の形成に努めました。

「人技両立」の校訓のもと、人間性を育てるためコミュニケーション能力や自主性を育成することで、企業に求められる良き社会人の育成を目指しております。

就職に有利となる資格取得に向け、例えば情報エンジニア科では基本情報技術者試験の早期受験を推進し、合格しました。電子・電設についても継続して資格指導を実施しており、ほぼ全員の就職、進学が決まりました。

企業ニーズに応えたプロフェッショナルの育成（「技」の錬磨）と適切な学生指導につきましては、日頃の授業実習に日本のモノづくりの現場の技術等実践的な内容を織り込み、専門学校の目標である実践力強化を図ることを心掛けました。

以上の様に、円満な人間性と即戦力を身に着けた「人材」の養成を常に心がけ、創立者精神である校訓「人技両立」を中心に日本人としてのアイデンティティとシチズンとしてのスタンスをもって、グローバルに活躍できるプロフェッショナルになるように努めました。

留学生教育は、特に大学進学と日本社会への円滑な適応支援（就職班学生指導と連携）を中心に頑張ってきました。

基本的には普段の授業内で実践的な訓練で大学編入と周囲の日本人となじめる環境づくりに腐心してきました。このような留学生指導により、日本人学生とのより一層の交流促進や日本語教育の徹底ができたと自負しております。

具体的には留学生担当として、女性職員を配置し、編入対策をサポートし、今後の女子学生確保にもつながる取り組みをしてまいりました。

また、英語が堪能な男性職員も配置し、留学生のサポートと海外向けの情報発信を強化しました。

留学生が大学編入学試験を受験するにあたり、筆記試験の対策と面接試験の支援を徹底するのみならず、同時に入学願書提出などの煩雑な手続きもフォローしました。

その成果として国費留学生が大学編入試験に合格し、さらに志望校である大学に合格しました。大学編入に関する科目については、2019年度の時間割にも組み込んで、引き続き対応してまいります。

実務の基本の徹底および全員資格取得の推進（資格取得において関西No.1を目指す）につきましては、工事担任者、2級陸上特殊無線（電子・電設）、第一種電気工事士（電設）、基本情報技術者（情報）を中心として危険物取扱者や消防設備士の資格取得に向け学生を指導しております。

A.I.R教育、IOT、ロボットを中心とする新学校構想の具体的な展開は、昨年度よりプログラミング言語PythonによるAI授業を開始して学生に好評を博しているところであります。

学生確保に向け、2018年度は、AI×ロボットを次年度の学校広報のテーマに据え、準備を進めております。

女子学生が入学しやすい様、女性向けコンテンツの制作や校舎のトイレの改装などを実施いたしました。

少子化が進む中、海外留学生に対して、海外からの問い合わせには適切に対応し、弊学園に入学する資格を有する優秀な学生の確保に努めました。

学生数の改善が図られ、2019年の在籍学生数は、2018年の在籍学生数より増加となりました。

学費軽減では、優秀な学生確保の両面からも検討し、2020年度募集に活かせるよう学費減額内容を変更致しました。

以上